

平成 26 年 8 月 29 日

## ところ会員各位

### ところ会 9 月行事案内

平成 26 年度 第 9 回テーマ：武蔵国の国府…府中を訪ねる

大国魂神社、府中郷土の森博物館、サントリービール工場

今回は所沢の福祉バスの抽選に漏れ、バス会社に予約をしてみました。が予約が出来ず、年間の行事予定ではバス利用の予定でしたが、公共機関を利用したの行事となります。

#### 記

■日 時：平成 26 年 9 月 26 日（金）8 時 55 分

■集合場所：武蔵野線、新秋津駅改札口

■見学場所及び時間：

新秋津駅発(9:07)⇒府中本町着(9:21)⇒大国魂神社・宝物殿(9:45～10:15)・武蔵国府跡(10:20～10:30)・ふるさと歴史館(10:35～11:05)  
⇒高札場(11:10)⇒矢島稲荷の大ケヤキ⇒称名寺⇒昼食(11:45～12:40)  
⇒ちゅうバス府中駅発 12:59⇒郷土の森博物館(13:30～14:05) ⇒徒歩約 20 分  
⇒サントリービール武蔵野工場(14:30～15:30)⇒シャトルバス(15:45 頃乗車)  
⇒分倍河原駅⇒府中本町経由⇒新秋津(16:15 頃)⇒解散

■昼食場所：モナムール（イタリアン）

住所：府中市宮町 2-1-1 ☎042-361-0774

パスタ料理：週替わりパスタランチ・コーヒー付 ¥1,290

（パスタの苦手な人に別にランチ定食あり¥1,140）

原則：パスタ料理とします。

モナムールとは mon（私の）amour（愛する人）という意味です（仏語）

■拝観料金

<大国魂神社>：200 円/人（団体・20 名以上：160 円/人）

<府中郷土の森博物館>：200 円/人（団体割引は 30 名以上）

#### 《見学場所簡単ガイド》

<国史跡 武蔵国府跡御殿地地区> 府中本町駅のすぐ東に、平成 23 年に武蔵国府跡の国史跡指定を受けた場所があります。この場所は、「御殿地」という地名が残ってきたように、江戸時代初期に、徳川家康が鷹狩りなどの際に逗留した「府中御殿」が置かれたところで、徳川将軍家の三つ葉葵紋鬼瓦や御殿跡関連の遺構が発見され、国司館と家康御殿という府中市を代表する貴重な遺跡です。

<大国魂神社> 約 1900 年の歴史をもつと伝えられている古社です。社伝によれば、景行天皇 41 年(111 年)5 月 5 日、武蔵国の護り神として大国魂大神<sup>\*1</sup>を祀ったのが始まりとされています。※1: 大国主神は多くの別名がありその一つ。

大化の改新以後、この地に武蔵国の国府が置かれて以来、国司が祭祀を執り行っていました。国司は各国内の全ての神社を一宮から順に巡拝していたが、これを効率化するため、各国の国府近くに国内の神を合祀した総社を設け、まとめて祭祀を行うようになりました。武蔵国では、大国魂神社がその総社となり、さらに、平安末期には著名な六か所の神社を合祀して「武蔵六所宮」と呼ばれるようになりました。

その後、武士の世の中になっても広く武将たちの信仰を集め、徳川家康が関が原の戦いや、大坂の陣の戦勝祈願成就の御礼として馬場を献上し、本殿や拝殿、楼門を修築しています。明治 4 年(1871)に武蔵総社大国魂神社と改称し現在に至っています。

毎年 5 月 5 日の六所宮の例大祭「くらやみ祭り」では境内に祀られている一之宮から六之宮の神輿が出御し、かつて 6 つの神社が六所宮に集結したようすを残していると思われます。70 万人の観光客で賑わいます。

参考資料：武蔵一宮と六所宮

大宮氷川神社の HP には『2000 年以上の歴史をもち……大宮の地名の由来にもなった日本でも指折りの古社。武蔵一宮として関東一円の信仰を集めた』と書かれています。

一方、小野神社のHPには『武蔵一之宮とは、中世に全国的に確立した、国内における神格の格付けで、国内第一の鎮守という意味です。南北朝時代に成立した「神道集」の記載にも「一宮は小野大明神」という記載が見られ、一宮は小野神社であることが確認できます』と書かれています。

室町時代の「大日本国一宮記」では氷川神社が一宮とされており、社格の逆転があったようです。ここでは、大國魂神社（武蔵六所宮）に合わせて武蔵国の六社を紹介します。

一宮	小野神社	多摩市一の宮 1-18-8
二宮	小河神社(現二宮神社)	あきる野市二宮 2252
三宮	氷川神社	さいたま市大宮区高鼻町 1丁目 407
四宮	秩父神社	秩父市番場町 1-3
五宮	金鑽(かなさな)神社	児玉郡神川町二ノ宮 750
六宮	杉山神社	横浜市緑区西八朔町

#### <大國魂神社本殿> 東京都指定文化財

本殿のうち中殿は大國魂大神、御霊大神、国内諸神、東殿は小野大神、小河大神、氷川大神、西殿は秩父大神、金佐奈大神、杉山大神を祀る。この本殿は四代将軍家綱の命によって完成したもので、その後数回修理を行なっているが部分的に室町時代末期の様式をとどめ、江戸時代初期の神社建築として価値があります。

<大國魂神社宝物殿> 大國魂神社の宝物殿として昭和 49 年開館。宝物殿の1階に「くらやみ祭」で使われる8基の神輿と、くり抜き胴太鼓では日本一の太鼓が格納されている。2階には重要文化財の狛犬のほか、重要美術品の古鏡、木彫仏像、古写本、御神宝の大太刀、徳川家康公寄進状など大國魂神社に縁のあるものを展示しています。

<国史跡武蔵国府跡> 武蔵国の国府は、所在地は特定されていませんでしたが、昭和 50 年以降の調査により、南北約 300m、東西約 200m の範囲が国衙（こくが：国府の中心にある役所区画）と判明しました。さらに、国衙域内において確認された溝により、東西・南北約 100m の



区画が推定され、この中から確認された大型建物跡2棟が国庁（こくちょう：国衙のさらに中心にある中心区画）の「正殿」に匹敵する国衙中枢建物跡と考えられています。

国衙西側部分に相当する大國魂神社境内域と、上記国衙中枢建物跡の保存箇所が史跡指定範囲ですが、大型建物跡部分は整備され公開されています。

#### <ふるさと府中歴史館>：大國魂神社境内

##### 1階 国府資料展示室

- ・武蔵国府跡やその関連遺跡の発掘調査の成果、古代国府を中心とした市の歴史や文化に関して紹介する施設です。
- ・国府の調査成果については、土器や瓦などの出土遺物の展示、タッチパネルを利用した「デジタル郷土かるた」、大型画面のCGにより奈良時代の国府の風景を再現した「国府百景バーチャルツーリング」などがあり、子どもからおとなまで文化財や遺跡について楽しみながら学習できます。
- ・また、くらやみ祭の映像紹介コーナーもあり、市内の文化財や遺跡など歴史文化遺産全般を検索可能なデータベースを備えています。

##### 2階 公文書史料室・公文書史料展示室

##### 3階 国府資料室、展示室

<府中の名木百選>…ここは山本の個人的な趣味にお付き合い下さい。

府中市は古くから栄えた土地なので巨木が多く存在し、右の写真の標識がつけられています。（所沢の標識とは大違い。）特に、大國魂神社の周辺は巨木が多い所なので探して見て下さい。それではそのうちの幾つかを紹介しましょう。

- ・大國魂神社西側のケヤキ数本、（左の写真はその内の1本、幹周 7.2m 14年前の写真です）
- ・大國魂神社本殿裏のイチヨウ：幹周 9.1m、推定樹齢 900年、東京都内で2番目の太さのイチヨウです。
- ・大國魂神社鳥居前のケヤキ：大鳥居前にある、一対のケヤキのうち、西側（拝殿に向って右）のケヤキが幹周 6.8m 推定樹齢 400年
- ・馬場大門のケヤキ並木：大國魂神社の参道に沿って南北に 560m 続いており、国指定天然記念物。ケヤキ並木の起源は前九年・後三年の役に向かう



源頼義・義家父子が大國魂神社に戦勝祈願をし、奥州安倍氏を平定（1062年）した帰途にケヤキの苗 1,000 本を寄進したのが、始まりです。その後、国府としての栄華は失われましたが、大阪の陣で戦勝した徳川家康がケヤキ並木の両側に馬場（馬の市場）を献納し、同時にケヤキ並木を補植しました。

・矢島稻荷の大ケヤキ：幹周 10.0m 推定樹齢 800 年

個人のお宅にあり、都内最大のケヤキであるにもかかわらず、都の天然記念物の指定も受けず、府中市の指定のみです。過去に3度の大火に遭ったこのケヤキは巨樹を訪ね始めた最初の日に見たので、幹のコブなどに表れている歴史に圧倒されました。〈高札場の後に行く予定です〉

下の写真は 2000 年の 8 月に撮影した物です。下見の時にこのケヤキが随分と枯れてしまった事にびっくりして写真を掲載しました。800 年も生きたケヤキが僅か 10 数年で様変わりしてしまいました。なんとか保護ができなかったのでしょうか。



〈高札場〉江戸時代、幕府から御法度（ごはつと）、掟書（おきてがき）、犯罪人の罪状などを一般庶民に通達する方法として、板に書き示して街道沿いの宿場や橋のもと、村の名主宅前など、人目に付きやすい場所に掲げたものを「高札」といい、これを掲げた場所を「高札場」といいました。これに似たものはすでに室町時代からありましたが、通達の体制や場所の整備が行われたのは江戸時代に入ってからで、

幕府の威光を示すためにも、盛んに利用されました。府中の高札場は大國魂神社御旅所の柵内に現在も残っています。ここは当時、甲州街道と北上する川越街道、南下する相州街道（現在の府中街道）が交差する交通の要でした。

〈称名寺〉称名寺の場所は武蔵介経基王の屋敷跡地と伝える。経基王は清和天皇の孫で後に臣籍降下して源朝臣となった清和源氏の始祖である。国司として武蔵国へ赴任して早々、上司の武蔵権守興世王と組んで足立郡司の武蔵武芝との間で紛争をおこし、仲裁に入った平将門を謀叛の企て有りと訴えて臆病者と呼ばれて拘禁された。ところが翌年、将門が常陸国衛を襲って本当に謀叛をおこしてくれたため、経基王は先見の明ありとして清和源氏は武門の家ということになった。

注：源氏とは日本において皇族が臣下の籍に降りる（臣籍降下）際に名乗る氏の一つで、一般に有名な清和源氏のほかにも多数の流派がある。

〈府中郷土の森博物館〉約 14ha の広さの”郷土の森“がひろがるフィールドミュージアムです。昭和 62 年に開園。敷地には府中の歴史や風土・自然を紹介する博物館本館、プラネタリウムや、8棟の復元建造物、広々とした芝生広場、梅園、水遊びの出来る池などがあります。博物館本館の、常設の展示室には、考古、歴史、民俗、自然、天文のそれぞれの分野ごとに、実物の資料が展示されているばかりでなく、映像や模型なども使って、府中の歴史や、自然をわかりやすく紹介しています。

園内は広いのですが今回は、博物館本館と8棟の復元建造物を中心に見学します。

◇常設展示室リニューアル工事に伴い、平成 26 年 4 月 1 日～10 月 3 日 常設展示室は見られず、特設展示場のみの観覧となります。

《サントリービール武蔵野工場：見学》

〈案内時間〉14:30 からで予定

〈所要時間〉60 分（ビール製造工程見学＋試飲）

〈内容〉ビール製造工場見学、試飲